

# 骨密度測定(骨塩定量検査)について

高齢者や閉経後、**ステロイド使用、関節リウマチそのもの**など骨粗鬆症の要因は様々です。骨粗鬆症により脊椎圧迫骨折や大腿骨頸部骨折のリスクが上がるため、早期に骨粗鬆症を発見し、適切に予防や治療を行うことが重要です。ここでは、骨粗鬆症に関する検査である骨密度測定(骨塩定量検査)をご紹介します。

## 主な骨密度測定法(骨塩定量検査)

方法	測定部位	利点	欠点
デキサ DXA (DEXA) 法	腰椎, 大腿骨	最も正確に評価できる	検診では受けられないことが多い
	腕 (橈骨)	腰椎, 大腿骨での測定ができないときに実施できる*	
レントゲンを用いるもの (RA法)	手指	簡便	正確性に劣る
超音波を用いるもの (QUS法)	踵	放射線被曝がない	参考にはできるが、骨粗鬆症の診断には使用できない

\*ただし副甲状腺機能亢進症の場合は腕(橈骨)で測定します

## 二重エネルギーX線吸収測定法(デキサ DXA, DEXA法)について

2種類のエネルギーのX線を照射して骨密度を測定する方法です。高い精度で評価できるので、**最も推奨される測定方法**です。

検査時間は約5分と短時間で、放射線被曝量は胸部レントゲンのおよそ1/6とされます。



若年成人(腰椎では20~44歳, 大腿骨では20~29歳)の平均値 YAM との比較で骨粗鬆症かどうかを判断します。**"YAM 80%"**とは、**若年成人の平均値と比べて骨密度が80%ということ**です。

## 骨粗鬆症の目安

脆弱性骨折#ありの場合 → YAM 80%未満  
脆弱性骨折#なしの場合 → YAM 70%以下

ステロイドによる骨粗鬆症に対しては、左記の基準を当てはめることはできないので注意が必要です

#軽微な外力(立った姿勢からの転倒か、それ以下の外力)によって発生した骨折